

日本宗教学会

第 79 回学術大会

オンライン開催

会期：2020年9月18日(金)～20日(日)

主催：駒澤大学学術大会実行委員会

参加登録をされた会員に対して、大会実行委員会が、9月15日までに各発表会場に参加するためのアクセス情報をメールで連絡いたします。

「お知らせ」と「お願い」

1. 理事会承認後の発表題目の変更、パネル発表の構成員・発表順の変更は一切認められません。

プログラムと同一にしてください。

2. 発表時間は以下のように決められています。時間厳守をお願いします。

- ・個人発表 発表 15 分、質問 5 分、計 20 分
- ・パネル発表 「発表者数×5 分」を参加者からの質問時間として確保ください。
それ以外の時間配分は、パネル運営者にお任せします。

3. 個人発表はグループ内の各発表の間に 5 分間を設けています。この 5 分間を議論の延長などに使うことのないようお願いいたします。

4. 発表の取り消しがあった場合でも、その後の発表は時間を繰り上げることなく、プログラム記載の時間に発表していただきます。

5. 理事会承認後の発表取り消しは原則として認められません。やむを得ぬ事情により発表を辞退せざるを得なくなった場合は、できるだけ速やかに、大会実行委員会に連絡をしてください。

6. 個人発表の『宗教研究』別冊用要旨について

10 頁『宗教研究』別冊用要旨 作成と提出の注意』に従って作成し、以下の締切日までに、編集委員会に送信してください。

- ・別冊への要旨の提出をもって発表に代える方 締切日：9 月 20 日（日）
- ・発表者 締切日：9 月 25 日（金）

7. パネル発表の『宗教研究』別冊用要旨について

10 頁『宗教研究』別冊用要旨 作成と提出の注意』に従って作成し、代表者が全員分を 9 月 25 日（金）までに、編集委員会に送信してください。

大会日程

9月16日(水)	* シンポジウム	動画配信 (限定公開)	9月16日~20日
9月18日(金)	庶務委員会	ミーティング会場	13:00-14:30
	理事会	ミーティング会場	15:00-17:00
9月19日(土)	研究発表(個人)	各ミーティング会場	9:00-12:35
	研究発表(パネル)	各ミーティング会場	13:00-17:00
9月20日(日)	研究発表(個人)	各ミーティング会場	9:00-12:35
	* 全体会議	ミーティング会場	13:00-13:30
	研究発表(パネル)	各ミーティング会場	13:40-17:40

* シンポジウムについて

あらかじめ録画した動画を配信する形で行います。

動画の閲覧期間は、大会開始2日前の9月16日から大会最終日の9月20日までとし、閲覧できるのは大会参加登録者のみといたします。登録者には9月15日までに動画視聴用のURLをメールで送信いたします。

また、動画の閲覧期間中、視聴者からの質問も受け付けます。大会実行委員会事務局のメールアドレス(jars79th@gmail.com)まで、お寄せください。質問への返答は、後日、大会ホームページに掲載の予定です。

* 全体会議について

式次第：会長挨拶

大会実行委員会委員長挨拶

会計報告

日本宗教学会賞

次年度学術大会

会長選挙の結果

次期会長挨拶

評議員会、会員総会、懇親会は行いません。庶務委員会以外の委員会は別日程となっております。

シンポジウム

近現代日本の仏教——戦前・戦後のアジアにおける連続性と断絶——

趣旨

近年、近現代日本の仏教についての研究が盛んになってきています。そのひとつの特徴として、日本というナショナルな枠組みを超えた研究の増加をあげることができます。仏教そのものの世界的な広がりが前提にありますが、それだけでなく、近現代日本の宗教史がトランス・ナショナルに展開してきたという認識が深まってきたことも、その一因と言えるでしょう。

では近現代のアジアという文脈において、日本仏教はどのような展開を見せたのでしょうか。アジア各地の仏教やその他の宗教とどのような接点を持ち、その出会いはどのように受け止められ、どのようなすれ違いや影響関係が生じたのでしょうか。またトランス・ナショナルな現象としての近現代の日本仏教は、戦前と戦後における断絶とともに、現在にまで至るどのような連続性を帯びているのでしょうか。

本シンポジウムでは、東アジア、東南アジア、南アジアの事例を取り上げ、歴史学、宗教学、文化人類学、仏教学など学際的な視点から、近現代の日本仏教の研究における新たな可能性を模索していきたいと思えます。

次第	趣旨説明・司会	矢野 秀武（駒澤大学教授）
	講演者	坂井田 夕起子（愛知大学国際問題研究所客員研究員）
	講演者	小島 敬裕（津田塾大学教授）
	講演者	ランジャナ ムコパディヤーヤ（デリー大学准教授）
	コメンテータ	石井 公成（駒澤大学教授）

共催 駒沢宗教学研究会

企画アドバイザー 大澤 広嗣（文化庁宗務課専門職）

登壇者紹介

坂井田 夕起子／さかいだ ゆきこ（愛知大学国際問題研究所客員研究員）

広島大学大学院文学研究科博士課程後期東洋史学専攻単位取得退学。専門は中国近現代史、日中関係史。中国・台湾の政治や外交と仏教の関わりを研究。主要著書は『誰も知らない西遊記—玄奘三蔵の遺骨をめぐる東アジア戦後史』（龍溪書舎、2013年）。論文に「中国人俘虜殉難者遺骨送還運動と仏教者たち—1950年代の日中仏教交流をめぐる」（『歴史研究』第47号）や「第二回世界仏教徒会議をめぐる東アジア仏教世界とその交流—戦後復興と冷戦、内戦の狭間で」（『佛教史学研究』第55巻第2号）、「中華人民共和国の対外工作と仏教（1952-1966年）」（石川禎浩編『現代中国文化の深層構造』京都大学人文科学研究所）、「中国人僧侶の見た近代日本仏教—大醒の『日本仏教視察記』を中心に」（『近代仏教』第26号）など。

小島 敬裕／こじま たかひろ（津田塾大学教授）

1969年生まれ。在ミャンマーWIN日本語学校教員を経てヤンゴン外国語大学留学。2003年に帰国後、中国雲南民族大学に在籍しながらミャンマー国境地域の上座仏教徒社会に関するフィールドワークを行い、2010年、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。博士（地域研究）。2016年より津田塾大学准教授、2020年同教授。専門は文化人類学、東南アジア地域研究。主要著書は『中国・ミャンマー国境地域の仏教実践—徳宏タイ族の上座仏教と地域社会』（風響社、2011年）、『国境と仏教実践—中国・ミャンマー境域における上座仏教徒社会の民族誌』（京都大学学術出版会、2014年）。論文に「ミャンマー上座仏教と日本人—戦前から戦後にかけての交流と断絶」大澤広嗣編『仏教をめぐる日本と東南アジア地域』（勉誠出版、2016年）などがある。

Ranjana MUKHOPADHYAYA／ランジャンナ ムコパディヤーヤ（デリー大学准教授）

インド生まれ。デリー大学大学院東アジア研究科 M.Phil.課程で日本研究に着手、1997年、同課程修了。2003年、東京大学大学院人文社会系研究科宗教学宗教史学専門分野博士課程修了。博士（文学）取得。2004年から2009年、名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授。2009年よりデリー大学東アジア研究科准教授。主な専門分野としては宗教学、社会学、日本学、仏教学、特に日本仏教の社会参加及び平和思想に関する研究。主要著書（和書）は『日本の社会参加仏教—法音寺と立正佼成会の社会活動と社会倫理』（東信堂、2005年）。論文に「藤井日達—西天（インド）開教の体験」『近代日本の仏教者—アジア体験と思想の変容』小川原正道編（慶應義塾大学出版会、2010年）、「日本仏教と平和主義—その実践と課題」末木文美士編『比較思想から見た日本仏教』（山喜房佛書林、2015年）などがある。

石井 公成／いしい こうせい（駒澤大学教授）

1950年東京都生まれ。早稲田大学第一文学部東洋哲学専修卒業。同大学院文学研究科単位取得退学。博士（文学）。専門は、華嚴宗・地論宗・禅宗・聖徳太子などを柱としたアジア諸国の仏教の教理と歴史、文学・芸能・近代ナショナリズム・心理学・酒・冗談などと諸国の仏教の関係、N-gramに基づくコンピュータ処理による著者判定ほか。主要著書に、『華嚴思想の研究』（春秋社、1996年）、『聖徳太子—実像と伝説の間』（春秋社、2016年）、『〈ものまね〉の歴史』（吉川弘文館、2017年）、『東アジア仏教史』（岩波書店、2019年）、『教えを信じ、教えを笑う』（村田みおとの共著。臨川書店、2020年）、監修本に『近代の仏教思想と日本主義』（法蔵館、2020年刊行予定）などがある。

矢野 秀武／やの ひでたけ（駒澤大学教授）

1966年東京都生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科（宗教学宗教史学専門分野）博士課程修了。博士（文学）。タイの上座部仏教の仏教運動、国家による仏教の制度化、仏教文化中心の社会における他宗教信徒の生活を研究。主要著書は『現代タイにおける仏教運動—タンマガーイ式瞑想とタイ社会の変容』（東信堂、2006年）、『国家と上座仏教—タイの政教関係』（北海道大学出版会、2017年）。共編著に櫻井義秀・外川昌彦・矢野秀武編著『アジアの社会参加仏教—政教関係の視座から』（北海道大学出版会、2015年）がある。

【第1グループ】

9月19日(土)

- | | | |
|----------------|--------------------------------|--------------|
| 1. 9:00-9:20 | 世俗化論はなぜ流行ったのかー学説史ではなく学問史の観点からー | 田中 浩喜(東大) |
| 2. 9:25-9:45 | 現代宗教学の方法論的議論ー認知科学的宗教理論への批判からー | 藤井 修平(東京家政大) |
| 3. 9:50-10:10 | 「ポスト世俗」の諸相 | 坪光 生雄(一橋大) |
| 4. 10:15-10:35 | 宗教のモデリングーヒンドゥー教とイスラーム教ー | 近藤 光博(日本女子大) |
| 5. 11:00-11:20 | 「絆」によって照らされるものー我々哲学の継承のための試論ー | 小林 敬(酪農学園大) |
| 6. 11:25-11:45 | 近代ドイツにおけるユダヤ教の再定義とその比較宗教学的意義 | 後藤 正英(佐賀大) |
| 7. 11:50-12:10 | アンリ・コルバンの歴史意識ーイスラームとキリスト教ー | 野元 晋(慶大) |
| 8. 12:15-12:35 | 井筒・東洋哲学とオットーの宗教論 | 澤井 義次(天理大) |

パネル AIと宗教ーAIと世界観・神観念ー

13:00-14:40 AIと一神教は関係あるのか

現代イスラーム社会におけるAIの位置づけ

トランスヒューマニズムと永遠性

技術社会における人工的他者としてのAIと情動

代表者: 木村 武史

小原 克博(同志社大)

石田 友梨(岡山大)

沖永 宜司(帝京大)

木村 武史(筑波大)

司会: 木村 武史(筑波大)

パネル 医療現場における宗教者による非信者への宗教的ケア

15:00-17:00 医療施設における宗教家の活動調査報告

病院における亡くなられた非信者患者への宗教者によるケア

ビハラー僧による非信者への宗教的ケア

超宗派の専任ビハラー僧による非信者への宗教的ケア

代表者: 山本佳世子

谷山 洋三(東北大)

山本佳世子(天理医療大)

打本 弘祐(龍大)

森田 敬史(龍大)

コメンテータ: 柴田 実(聖学院大)

司会: 山本佳世子(天理医療大)

9月20日(日)

- | | | |
|----------------|--------------------------------|--------------|
| 1. 9:00-9:20 | 言葉による神秘神学ー中世末期の「発話神学」をめぐってー | 徳田安津樹(東大) |
| 2. 9:25-9:45 | トゥーゲントハットによる神秘主義解釈について | 西村 雄太(早大) |
| 3. 9:50-10:10 | 神的世界の実在ージェイムズの「見えない秩序」を手がかりにー | 林 研(大阪経済法科大) |
| 4. 10:15-10:35 | スペイン神秘主義の読まれ方ー思想形成の資源としての詩と体験ー | 鶴岡 賀雄(清泉女子大) |
| 5. 11:00-11:20 | バルタザールによるカール・バルト理解 | 水口 隆司(同志社大) |
| 6. 11:25-11:45 | 神学的倫理学位における社会性と正義の問題に関する一考察 | 上原 潔(大阪産業大) |
| 7. 11:50-12:10 | ポール・ニッターの諸宗教の神学とポストモダニズム | 橋田 直樹(岐阜高専) |
| 8. 12:15-12:35 | 宗教学者チャールズ・H・ロングと黒人神学 | 村上 辰雄(上智大) |

パネル 「次世代教化システム」の継承と創造ー神社・寺院・地域社会ー

13:40-15:20 神社神道における次世代教化システムの可能性と課題

仏教青年会の若手僧侶育成による次世代教化

寺社を中心とした文化資源の継承と創造

代表者: 川又 俊則

冬月 律(モラロジー研究所)

川又 俊則(鈴鹿大)

郭 育仁(鈴鹿大)

コメンテータ: 井口 貢(同志社大)

司会: 川又 俊則(鈴鹿大)

パネル 講と女性をめぐる研究ージェンダー視点が拓く可能性ー

15:40-17:40 契約講社会における女講中の役割と相対性

「講的なもの」としての女性宗教者の集まりー沖縄の事例からー

梅花講における女性僧侶・寺族・女性檀信徒講員

御嶽講と女性先達ー行と法力が支える講活動ー

代表者: 小林奈央子

戸邊 優美(埼玉県立歴史と民俗の博物館)

後藤 晴子(南山宗教文化研究所)

佐藤 俊晃(曹洞宗総合研究センター)

小林奈央子(愛知学院大)

コメンテータ: 長谷部八朗(駒大)

司会: 小林奈央子(愛知学院大)

【第2グループ】

9月19日(土)

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | ワイトゲンシュタインとドストエフスキー | 伊藤 潔志 (桃山学院大) |
| 2. 9:25- 9:45 | キエティスム論争再訪 | 渡辺 優 (東大) |
| 3. 9:50-10:10 | 日本語近現代詩歌史における西洋古代宗教とキリスト教の受容史 | 中西 恭子 (東大) |
| 4. 10:15-10:35 | 明治前期における「世界の諸宗教」像の形成についての一考察 | 星野 靖二 (國學院大) |
| 5. 11:00-11:20 | 生成の神学と心身論の位置—聖マクシモスと山崎闇齋の事例から— | 久保 隆司 (早大) |
| 6. 11:25-11:45 | 新プラトン主義の日本における受容の初期をめぐる一考察 | 土井 裕人 (筑波大) |
| 7. 11:50-12:10 | 初期アカデメイア派の『ティマイオス』解釈 | 土屋 睦廣 (日大) |
| 8. 12:15-12:35 | アンセルムスの三位一体論—適合化について— | 矢内 義顕 (早大) |

パネル 陰陽道研究の最前線

- 13:00-15:00 陰陽道の定義とその成立
陰陽道・陰陽師研究の中世
近世陰陽道研究の現在
民俗と説話の領域から—民俗的陰陽道研究の視点—

代表者：林 淳

- 細井 浩志 (活水女子大)
赤澤 春彦 (摂南大)
梅田 千尋 (京都女子大)
小池 淳一 (国立歴史民俗)

コメンテータ・司会：林 淳 (愛知学院大)

パネル AIと宗教—AI・ロボットの日本文化における受容を考える—

- 15:20-17:00 日本文化は「テクノ・アニミズム」か
擬人化された世界におけるAIの生命観—伝統芸能の事例から—
人知を超えるもの、人、つくられたものを巡る信念の揺れと共存
高台寺のアンドロイド観音「マインダー」開発の背景

代表者：師 茂樹

- 師 茂樹 (花園大)
永原 順子 (阪大)
濱田 陽 (帝京大)
後藤 典生 (高台寺)

司会：師 茂樹 (花園大)

9月20日(日)

1. 9:00- 9:20
2. 9:25- 9:45 (発表なし)
3. 9:50-10:10
4. 10:15-10:35

- | | | |
|----------------|---|--|
| 5. 11:00-11:20 | Freedom of Religion as a Diplomatic Strategy of Japan in 1893 | TAKASE Kōhei (Univ. of Tokyo) |
| 6. 11:25-11:45 | The New Life Movement in Post-war Japan: Simplification of Weddings and Funerals | ŌBA Aya (Taisho Univ.) |
| 7. 11:50-12:10 | Localisation of Contemporary Western Witchcraft in Japan | KAWANISHI Eriko
(Professional Institute of International Fashion) |
| 8. 12:15-12:35 | An Evaluation on <i>Samathupuram</i> in Tamil Nadu in Promotion of Social Harmony | ANTONY Susairaj (Nanzan Univ.) |

パネル 宗教と教育における多様性—新たな共生への視点を考える—

- 13:40-15:40 宗教の観点から教育の多様性を理解する
ミッションスクールにおける多様性受容と理解の教育
教育学からみる宗教的多様性と教育ニーズ
宗教的多様性の時代に求められる倫理

代表者：森田 美芽

- 森田 美芽 (大阪キリスト教短大)
水口 洋 (玉川聖学院)
丸山 英樹 (上智大)
下田 正弘 (東大)

コメンテータ：土井 健司 (関西学院大)

司会：森田 美芽 (大阪キリスト教短大)

パネル 現代日本の葬送文化再考—異文化の視点から考える—

- 16:00-17:40 日英葬送比較文化の試み—直葬と火葬の歴史から—
日本の樹木葬—エコロジーの思想を取り入れた寺院—
骨仏から祈りの真珠まで—現代日本供養文化における遺灰の変形—

代表者：宮澤 安紀

- 宮澤 安紀 (筑波大)
セバスチャン・ペンメレン・ボレー (東北大)
ハンナ・グールド (メルボルン大)

コメンテータ：土居 浩 (ものづくり大)

司会：宮澤 安紀 (筑波大)

【第3グループ】

9月19日(土)

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 明治天皇の大喪儀をめぐる諸問題 | 大番 彩香 (國學院大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 植民地朝鮮における日本系宗教の全体図 | 金 泰勲 (四国学院大) |
| 3. 9:50-10:10 | 台湾宗教研究と神道概念の関係ー増田福太郎を事例にー | 原田 雄斗 (一橋大) |
| 4. 10:15-10:35 | 憲兵隊による日本救世軍弾圧の経緯 | 小島 伸之 (上越教育大) |
| 5. 11:00-11:20 | 知識人宗教としての近代神道学形成前史ー神道青年運動を中心にー | 木村悠之介 (東大) |
| 6. 11:25-11:45 | 近代日本における「教団」という自己定位 | 藤井 麻央 (東京工業大) |
| 7. 11:50-12:10 | 60年代英国におけるカウンターカルチャーと神学 | 村山 由美 (東洋大) |
| 8. 12:15-12:35 | 国家神道概念の形成過程 | 島菌 進 (上智大) |

9月20日(日)

- | | | |
|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 日本正教会の神による「記憶」ー死者を巡る実践を事例としてー | 佐崎 愛 (東北大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 小崎弘道における政治と宗教 | 齋藤 公太 (神戸大) |
| 3. 9:50-10:10 | 有賀鐵太郎による基督教学の構想ー未公開資料の調査よりー | 小柳 敦史 (北海学園大) |
| 4. 10:15-10:35 | 日本 MTL のハンセン病政策ー自由療養区から絶対隔離へー | 松岡 秀明 (東京医科歯科大) |
| 5. 11:00-11:20 | 「神」と「正直」ー吉見幸和を事例としてー | 城所 喬男 (東北大) |
| 6. 11:25-11:45 | 本居宣長の『統紀歴朝詔詞解』にみる天皇と宗教 | 森 和也 (中村元東方研究所) |
| 7. 11:50-12:10 | 肥前の国学者における「道」と「雅び」 | 三ツ松 誠 (佐賀大) |
| 8. 12:15-12:35 | (発表なし) | |

【第4グループ】

9月19日(土)

- | | | |
|----------------|-----------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 新仏教とユニテリアンー広井辰太郎の信仰論を中心としてー | 呉 佩遥 (東北大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 黒田眞洞の小泉八雲への影響ー唯心と涅槃の理解の観点からー | 鷹司 誓榮 (佛教大) |
| 3. 9:50-10:10 | 神道三穂教会史料にみる「鎮魂・帰神法」 | 並木 英子 (国際基督教大) |
| 4. 10:15-10:35 | 無きものとされた近代知ー心霊研究の諸事実と諸説明ー | 津城 寛文 (筑波大) |
| 5. 11:00-11:20 | プトレマイオス『地理学』中のマガ関連記述の批判的検討 | 永井 悠斗 (筑波大) |
| 6. 11:25-11:45 | サムエル記における「神の箱」についてーサム上4:1-22ー | 塩野谷恭輔 (東大) |
| 7. 11:50-12:10 | Midrash Rabbah の印刷から見られるラビたちの解釈伝統 | 袁 浩春 (東大) |
| 8. 12:15-12:35 | カイロ・ゲニザにおけるユダヤ教カラムと聖書解釈 | 法貴 遊 (日本学術振興会) |

9月20日(日)

- | | | |
|----------------|---------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 近世イギリスにおけるイスラームへの言説ー捕虜と再改宗を例にー | 河底 佑佳 (東大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 十二イマーム派における「薄弱者 (mustad'af)」の概念 | 平野 貴大 (日本学術振興会) |
| 3. 9:50-10:10 | 井筒俊彦のイスラーム学ーイスラーム法理学の観点からー | 四戸 潤弥 (同志社大) |
| 4. 10:15-10:35 | ルーミーの宗教共生思想ーイエス・モーセ観からー | 佐野 東生 (龍大) |
| 5. 11:00-11:20 | 三輪田高房の伝えた鎮魂行事と橘家神道十種加持 | 新田 惠三 (皇學館大) |
| 6. 11:25-11:45 | 丸山教会の扶桑教合同期における教理的言説 | 大谷 正幸 |
| 7. 11:50-12:10 | 柴田礼ー管長時代の実行教の教化活動 | 今井 功一 (戸田市役所) |
| 8. 12:15-12:35 | (発表なし) | |

【第5グループ】

9月19日(土)

- | | | |
|----------------|--------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 発見された上田天瑞「ビルマ日記」を読む | 大澤 広嗣 (文化庁) |
| 2. 9:25- 9:45 | 帝国日本の持戒僧―目白僧侶たちの朝鮮体験をめぐる― | 亀山 光明 (東北大) |
| 3. 9:50-10:10 | 戦後日本における密教ブームと「超能力」 | 韓 相允 (東北大) |
| 4. 10:15-10:35 | 日露戦争における軍人精神と禅―加藤咄堂の人格論を中心として― | 山口 陽子 (東北大) |
| 5. 11:00-11:20 | 梵文法華経における prajñā | 西 康友 (中央学術研究所) |
| 6. 11:25-11:45 | 左京阿闍梨日教伝の再検討 | 堀江 瑛正 (立正大) |
| 7. 11:50-12:10 | 日蓮著『立正安国論』にみる經典引用をめぐる | 矢吹 康英 (立正大) |
| 8. 12:15-12:35 | 仏教系新宗教における法華経の受容と解釈 | 大西 克明 (創価大) |

9月20日(日)

- | | | |
|----------------|------------------------------|---------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 大谷光瑞と中国―水野梅暁宛書簡を中心に― | 楽 星 (東北大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 「近代真宗学」のなかの江戸宗学 | 菊川 一道 (龍大) |
| 3. 9:50-10:10 | 戦前期真宗大谷派の災害対応 | 御手洗隆明 (真宗大谷派教学研究) |
| 4. 10:15-10:35 | アメリカ仏教のなかの女性たち―浄土真宗の伝道事例より― | 釋氏 真澄 (浄土真宗本願寺派宗学院) |
| 5. 11:00-11:20 | 玉溪延俊についての考察 | 平 燕紅 (国際仏教学大学院大) |
| 6. 11:25-11:45 | 新出・伝円仁写『注大般涅槃経』卷二十二攷 | 青木 佳伶 (武蔵野大) |
| 7. 11:50-12:10 | 性海靈見による東福寺復興事業―『元亨釈書』入蔵以後― | 鄭 美景 (花園大) |
| 8. 12:15-12:35 | 『マニ・カンブン』における観自在菩薩の21經典の引用研究 | 楨殿 伴子 (身延山大) |

【第6グループ】

9月19日(土)

- | | | |
|----------------|----------------------------|----------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 『往生論註』における「広略相入」の一考察 | 溪 英俊 (浄土真宗本願寺派総合研究所) |
| 2. 9:25- 9:45 | 善導の光明観―身光と心光を中心に― | 安部 弘得 (龍大) |
| 3. 9:50-10:10 | 親鸞の「報中化土説」成立の背景とその周辺 | 那須 一雄 |
| 4. 10:15-10:35 | 聖覚仮託文献としての『黒谷源空上人伝』について | 西河 唯 (龍大) |
| 5. 11:00-11:20 | 妙好人とローカリティ | 黒崎 浩行 (國學院大) |
| 6. 11:25-11:45 | 日蓮宗寺院伽藍配置の特徴―石川県滝谷妙成寺を中心に― | 望月 真澄 (身延山大) |
| 7. 11:50-12:10 | 禅観經典に見る心の負の反応に対する対処法 | 蓑輪 顕量 (東大) |
| 8. 12:15-12:35 | 一念三千と他者 | 三輪 是法 (立正大) |

9月20日(日)

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | メディアと教団活動―社会貢献に関する認知度の違い― | 青木 繁 (東京工業大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 枚岡神社における国際化への取り組み | 辰巳佳寿恵 (大阪体育大) |
| 3. 9:50-10:10 | 「人文科学のみに係るものを除く」に関する経緯考 | 太田 俊明 |
| 4. 10:15-10:35 | 戦後神社界による政治活動の理念と実践 | 塚田 穂高 (上越教育大) |
| 5. 11:00-11:20 | コロナ禍における御開帳の変容―拝観停止とリモート参拝の試み― | 和栗 隆史 (大阪府立大) |
| 6. 11:25-11:45 | 感染症と現代ユダヤ教世界 | 志田 雅宏 (東大) |
| 7. 11:50-12:10 | 学生と共に考える「コロナ時代の生命倫理」 | 冲永 隆子 (帝京大) |
| 8. 12:15-12:35 | 特別の教科「道徳」の教科書に「いのち」はどうか描かれているか | 弓山 達也 (東京工業大) |

【第7グループ】

9月19日(土)

- | | | |
|----------------|--------------------------------|---------------|
| 1. 9:00- 9:20 | カルト、AA、マインドフルネスー神的存在をめぐってー | 横道 誠 (京都府立大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 「願望成就本」の中の神社と祭神ー「引き寄せの法則」との接合ー | 大道 晴香 (國學院大) |
| 3. 9:50-10:10 | 物語にみるファンタジーとリアリティの均衡の変容 | 大澤千恵子 (東京学芸大) |
| 4. 10:15-10:35 | ポジティブ心理学と現代スピリチュアリティ研究 | 伊藤 雅之 (愛知学院大) |
| 5. 11:00-11:20 | ナウエンのパストラルケアにおける靈性理解ー聖霊との関係ー | 武田 厚子 (立教大) |
| 6. 11:25-11:45 | 宗教と青年期適応に関する研究ー個人認知変数と抑うつスキーマー | 山崎 洋史 (昭和女子大) |
| 7. 11:50-12:10 | 現代日本における仏教者の取り組み | 川本 佳苗 (京大) |
| 8. 12:15-12:35 | 心の声に従うー佼成カウンセリング研究所での傾聴者養成ー | 葛西 賢太 (上智大) |

9月20日(日)

- | | | |
|----------------|-------------------------------|---------------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 生徒の受動的な理解が「宗教科」学業達成に及ぼす影響 | 桑原 昭信 (浄土真宗本願寺派宗学院) |
| 2. 9:25- 9:45 | 新しい宗教教育に関する批判的考察 | 宇田川千帆 (國學院大) |
| 3. 9:50-10:10 | 宗教のフィールドワーク教育 | 飯嶋 秀治 (九大) |
| 4. 10:15-10:35 | (発表なし) | |
| 5. 11:00-11:20 | モダニティの呪術性ーケニア、ドゥルマ社会の悪魔崇拝言説ー | 岡本 圭史 (南山大) |
| 6. 11:25-11:45 | ユダ、イエスを出しぬくーグアテマラ・マヤ系先住民の聖週間ー | 大村 哲夫 (東北大) |
| 7. 11:50-12:10 | カナダ、クレー族のサンダンスとウーマンズ・セレモニー | 谷口 智子 (愛知県立大) |
| 8. 12:15-12:35 | (発表なし) | |

【第8グループ】

9月19日(土)

- | | | |
|----------------|-------------------------------|-----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 「胎教」と「胎内記憶」のスピリチュアリティ | 橋迫 瑞穂 (立教大) |
| 2. 9:25- 9:45 | クィア仏教学の射程 | 宇治 和貴 (筑紫女学園大) |
| 3. 9:50-10:10 | 戦後の日蓮宗における女性教師の養成制度 | 丹羽 宣子 (國學院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 世俗主義(ライシテ)とジェンダーーフランス語圏の議論からー | 伊達 聖伸 (東大) |
| 5. 11:00-11:20 | ストラスブールにおける宗教間対話の展開とその地域的特性 | 佐藤香寿美 (お茶の水女子大) |
| 6. 11:25-11:45 | 怪異譚における〈宗教〉 | 古山 美佳 (國學院大) |
| 7. 11:50-12:10 | カレンダーの中の宗教行事ー花まつりとクリスマスー | 別府 良孝 |
| 8. 12:15-12:35 | 出身地域から「日本の宗教」を捉え直すー島原半島調査からー | 西村 明 (東大) |

9月20日(日)

- | | | |
|----------------|--------------------------------|----------------|
| 1. 9:00- 9:20 | 新しい葬送の担い手とその宗教意識ー仏教檀信徒との比較からー | 谷山 昌子 (東京工業大) |
| 2. 9:25- 9:45 | 生身の地藏霊地、下野岩船山高勝寺の信仰の諸相 | 林 京子 |
| 3. 9:50-10:10 | 武州御嶽山の宿坊運営を支えるつながりー御師の子供に注目してー | 高田 彩 (國學院大) |
| 4. 10:15-10:35 | 地方自治体の葬祭業務とその変容ー千葉県習志野市の事例からー | 山田 慎也 (国立歴史民俗) |
| 5. 11:00-11:20 | 神々の輪廻ー永劫回帰と菩薩行ー | 山崎 好裕 (福岡大) |
| 6. 11:25-11:45 | 河口慧海の仏説論 | 庄司 史生 (立正大) |
| 7. 11:50-12:10 | (発表なし) | |
| 8. 12:15-12:35 | (発表なし) | |

『宗教研究』別冊用要旨 作成と提出の注意

締切日が異なりますので、ご注意ください。

・別冊への要旨の提出をもって発表に代える方 締切日：9月20日（日）

9月20日までに送信されなかった場合は、掲載不可となります。

・発表者 締切日：9月25日（金）

9月25日までに送信されなかった場合、発表を行わなかった場合は、掲載不可となります。

パネル発表は、代表者が全員分をとりまとめて送信してください。

① 作成と提出方法 送信先：『宗教研究』編集委員会 ja-religion@mub.biglobe.ne.jp

大会HPの「別冊要旨・入力ファイル」のバーからダウンロードした『宗教研究』94巻別冊要旨・入力ファイル（Word）に入力し、添付ファイルで送信してください。

メールの件名と添付ファイルの名前：別冊要旨 発表者名 例：別冊要旨 鈴木花子

メールを受信した時は、必ず返信を出します。

（受信した順に、添付ファイルを開き、作業を行うため、返信が翌日以降になることがあります）

② 提出原稿の書式 規定にそっていない場合は掲載できません。

縦書き 40字×40行以内（総文字数ではありません） 用紙：A4横

文字サイズ：10.5ポイント 邦文のフォント：MS明朝（ゴシック・太字の使用は不可）

入力ファイルのページ設定の変更は不可

縦書きのため、邦文は原則、漢数字を用いる。常用漢字、現代仮名づかいを用いる。

注記、参考文献一覧は認めない（要旨中に丸括弧で挿入する）。図表等の掲載は不可。

日本語が母語でない方は、必ず、日本語上の精査を受けてください。

英語で発表を行った場合も、要旨は日本語で提出する（タイトル・発表者名は英語）。

・パネル発表

代表者は「パネルの主旨とまとめ」「パネルの欧文タイトル」、発表者は「発表要旨」、コメンテータは「コメント」を提出することを原則とする。いずれも40字×40行以内。

代表者がとりまとめて、9月25日までに、編集委員会に送信してください。

「パネルの主旨とまとめ」「パネルの欧文タイトル」は、代表者が執筆する。

・欧文タイトル

邦文題目に照らして、ネイティブスピーカーが手を加えることがあります。

『宗教研究』編集委員会

日本宗教学会 第79回学術大会 実行委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1 駒澤大学総合教育研究部文化学部門内

E-mail : jars79th(at)gmail.com (at)を@に変えて送信してください

HP : <http://jpars.org/conference/>